

■北海学園大が帯広畜産大を下して連勝。室蘭工業大も東京農業大に逆転勝ち

春季オープン戦は第3日の6月30日、札幌市清田区の北海学園清田グラウンドで2試合を行った。室蘭工業大はRB 冨樫司（4年、札幌清田高）とRB 友田悠斗（3年、岡山・玉島高）のTDランで15-6と東京農業大を下した。第2試合は北海学園大がRB 高杉武生（4年、浦河高）の2TDランなどで、帯広畜産大に41-7で快勝した。北海学園大はオープン戦2連勝となった。

第1試合は、昨年の秋季リーグ1部で5位の室蘭工業大と、2部で優勝し、入れ替え戦も制して2年ぶりの1部復帰を決めた東京農業大。ともに2年生QBが先発し、その指揮ぶりが注目の一戦となった。

先手を取ったのは東京農業大。第1Q3分、QB 関叶翔（2年、茨木・日立北高）からWR 浅川夏暉（2年、東京・安田学園高）への17ヤードパスで6-0と先制した。室蘭工業大の追い上げは第2Q5分。QB 原田颯太（2年、岡山・倉敷天城高）からTE 穴戸蓮旺（4年、札幌日大高）へのパスなどで前進し、最後はRB 冨樫の7ヤードランで同点とした。その2分後にはDL 渡辺昭彦（2年、鳥取・倉吉東高）が相手QBをエンドゾーン内でタックルしてセーフティーの2点を加えて逆転した。さらに、第4Q10分にRB 友田の40ヤードTDランで15-6とリードを広げた。



室蘭工業大の半沢伸太

郎監督は「QBが頑張った。友田も一番元気良く頑張った。秋に向け細かなミス無くしたい」と手ごたえを強調した。TDランに加えてLBの守備でもインターセプトを決めたRB 友田は「インターセプトは狙っていた。TDランはブロッカーをうまく使えた。秋に向けてもっとパワーを付けたい」と言葉を弾ませた。

第2試合は、昨年の秋季リーグ準優勝で攻撃力に勝る北海学園大が、前年3位ながら選手16人の帯広畜産大を圧倒した。

北海学園大は第1Q3分、QB 成田滉佑（3年）がWR 五十嵐勇星（1年、札幌啓成高）へ3ヤードパスを決めて先制。第2Qに逆転を許すが、第3Q4分、QB 成田滉の1ヤードキープで14-7と再逆転すると、同7分にRB 高杉武生（4年、浦河高）の11



ヤードラン、第4Q開始直後にもRB高杉が6ヤードランで27-7と加点した。同5分にはRB上野捷真（1年、北広島高）の5ヤードラン、同10分にもRB末廣大貴（1年、北海高）の1ヤードランでリードを広げた。帯広畜産大は第2Q8分、WR/DB平紘大（2年、帯広柏葉高）のインターセプトで得た好機にRB西山倅生（2年、札幌光星高）の1ヤードランで逆転したが、その後は北海学園大守備に反撃を封じられた。

北海学園大の高木幸樹ヘッドコーチは「今日は1年生がいっぱい活躍したのが収穫。QB成田滉は一層の成長を」と新司令塔に期待を込めた。TDパスとランでチームを引っ張ったQB成田滉は「前半はゲームを壊していた。投げミスもあった。次は1発目からきちんとプレーしたい」と反省を忘れなかった。一方、帯広畜産大の外崎智文主将（4年、大野農業高）も「1年生選手が使えた」と新戦力を歓迎。先発QBの岡田優人（2年、神奈川・横浜東高）は「去年の最終戦以来の先発。冬の練習に励んできた。秋は強力なランを生かし、パスも通したい」と決意していた。

